

組合だより

第168号
2013年
10月3日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

目次 : 1 2.大学改革~京都大学で何が起きているか?? 全大教教研集会報告 3 全大教訴訟関係
3~5.夏パーティ開催しました 5~6.フーテン旅行記(第12回) 6.単組だより(理学部、教育単組)

大学改革 ~京都大学で何が起きているか~



京都大学は、平成24年度国立大学改革強化推進事業に「国際高等教育院の設置及び学部等のグローバル化の推進」が選定されました。これによって、京都大学には今後5年間で100人の外国人教員が採用されることとなります。しかしながら、この申請は、総合人間学部・人間環境学研究科教授会の反対決議を無視して押し進められました。この事情と現在の状況を聞くために、8月24日、全大教に設置されている高等教育政策部会に、京都大学の職組委員長・西牟田先生(経済学研究科)をお招きし、お話を聞きました。また、これは全大教の皆さんにも知って貰った方が良くと判断し、9月21日から開催された全国教研集会でもお話しいただきました。今回はその報告です。なお、本報告をする中富は、全大教高等教育政策部会の委員であり、教研集会では、この問題を扱った分科会の司会を務めました。

この京大の動きを知るためには、現在の文科省の政策を理解しておく必要があります。2013年4月23日に出された「人材力強化のための教育改革プラン」では、「グローバル人材の育成」が掲げられ、「英語で授業を実施(5年で3割、10年で5割)」が目標に挙げられています。つまり、10年後には大学の授業の5割は英語で行うというのです。そのために、「スピード感を持ってグローバル化を断行し世界と競う大学の重点支援」が課題とされ、「外国人や海外で学位取得した若手教員の積極採用、英語で学位取得可能なプログラムを大幅拡充」などを行うとなっています。

これに京都大学が真っ先に手を挙げた、ということでしょう。取り組み内容として「100人規模の外国人教員を新規採用、教養科目の半分以上を英語で講義する事をめざす」とあります。この他に、九州大学にも30人規模の外国人教員の採用が認められています。

では何故、総合人間学部・人間環境学研究科教授会は反対決議を挙げたのか。京都大学では、この学

部が中心となって教養教育を担ってきました。しかし学長は、どの機関にも相談することなく独断専行で申請したとのこと。どのような教養の授業が必要か、各学部では如何にグローバル化に取り組むのか、一切議論はなかったといえます。まず、100人の外国人教員採用ありきから話がはじまります。

彼らを迎える機関として「国際高等教育院」が新たに設置され、教員定員200名が予定されています。このため、現在教員定員139人の総合人間学部を39人に改組。残りの100名が「国際高等教育院」に異動し、新たな外国人100名とで構成することになるそうです。



この外国人100人は任期付きではありません。正規採用です。毎年20人ずつ5年間で採用の予定ですが、文科省からお金が出るのは、最初の1年だけです。つまり2年目からは正規ポストを彼らのために用意しなければなりません。これは、今のポストが5年間で100消えることを意味します。これについて大学当局は、各部局の定員ポストを利用して「溶け込ませて」雇用を継続すると言っています。これは既存部局の人事計画を全く壊してしまうことを意味します。現在、学長は、20名の外国人教員採用申請をするよう各部局に要請しているようですが、8名しか申請がない状況です。今後の京大の動向に注意が必要です。

何が問題か話合いました。まず、学長のリーダーシップの在り方と文科省の改革の進め方です。文科省の概算要求に採択されるには学内の同意を待っている余裕はないと学長は判断したのでしょうか。そうして早く手を挙げたところに文科省は予算をつけています。しかしグローバル化の進め方に対して学内に合意がない段階での見切り発車で、果たしてうまく行くのでしょうか。また既存の学部の人事計画も壊されます。またこのような進め方で良い教員が採

用できるのか。学生は授業の半分を英語で行った場合、ついてこられるのか。課題は山積です。

しかし先述した文科省の「人材力強化のための教育改革プラン」には、「現行制度の枠にとらわれずに構造転換を、制度と予算を総動員して実現」、「トップ外国大学から教育組織を『ユニット』で丸ごと誘致し、ハイブリット型の国際大学院または学部を設置」、「トップクラス教員やプロフェッショナルな職員を相応の待遇で招聘」、「年俸制や雇用期間等国際通用性のある人事・雇用体制」など威勢の良い言葉が羅列してあります。これらは可能でしょうか、我々にどのような影響を及ぼすでしょうか。また、大学ガバナンスの改革として「学長のリーダーシップの確立」が挙げられています。まさに「学長のリーダーシップ」とは何なのかが問われていると思われま

す。人ごとではありません。注視が必要です。

全大教教研集会報告



9月21日から開催された全国教研集会

では、A1分科会「高等教育改革の現状と課題を考える」の司会を務めました。ここでは、2日間で5本の報告がなされました。



①「国立大学法人における高等教育政策の課題」 竹内全大教教文部長 ②「京都大学における全学組織再編の現局面」 ③「大学改革と到達度テスト導入・センター試験廃止問題」 全大教高等教育政策部会委員・光本先生（北大教育学部）、④「北海道教育大学における学長選考問題と大学の自治」 ⑤「山口大学における学部長選考問題」 滝野書記次長。

②については既に紹介しました。ここでは、③⑤について紹介します。

現在、センター入試を廃止して、あるいは平行して、到達度テストの導入が検討されています。これはどういう問題なのでしょうか。

大学にどういふ学生を入学させるのかは、各大学が決めることで、これは憲法23条学問の自由に包含される大学の自治で保障されていると理解されています。その一部を大学共同で行っているのがセンター入試です。これは従って、大学教育への適性を

図るためのものです。しかしながら、これは同時に高校教育の到達度を図る手段としても意識されています。これを分けようという訳です。確かに大学に行かない生徒にとって、高校卒業程度の学業を有していることを証明してくれる試験はないとも言えます。高校教育の到達度が問われる時代になったと言うことでしょうか。これは高校側の要請でもあるといえます。高校の授業を最後まできちんと受けさせることが期待されています。しかしこれに併せて、おかしな動きもあるようで今後とも注視が必要です。

山口大学では、学部長の学長任命制が導入されるようです。学部長選考は、当該部局が複数（3名以内）の候補者を推薦し、学長が面接を行い、役員会の承認を得た上で、学長が学部長を任命するという改革案が、本年9月10日、学長から提示されました。これにすべての学部が反対しているが、強行されようとしているとのことでした。

ちなみに京大にせよ、山口大学にせよ、重要な改革案が、教員が海外出張、論文執筆で忙しい夏休みに、突如提案されているようで、これも注意が必要です。

この改革案は「大学改革実行プラン」の柱の一つ、「大学ガバナンスの充実・強化」のうち「学長のリーダーシップの確立」に関する問題だと思われます。このリーダーシップの意味するところは、先の京大の改革で見たところでは、山口大学は、今年、新学部の新設が認められています。「新学部は、高い英語力や科学技術の知識を習得する『国際総合科学部』（仮称）で、来年末にも設置の可否が決まる見通し」とされています。この新設に際して、学部長の学長任命制を手土産にした可能性があります。「理系の研究科を統合した後は、文系の改革にも着手する」とされます（2013年9月30日 読売新聞）。

いたるところで「大学改革」が進められているようです。先見性と責任をもって、大学の在り方について議論を深めていく必要があると思われます。

なお、他大学の先生から岡大の「組合だより」楽しみに読んでいますと声を掛けられました。

9月22午後、23日は、非常勤職員問題のB6分科会に参加しました。大学が、人を安く雇用することしか考えないなら、そのつけは、我々教員にも跳ね返ってくると感じました。非常勤の方々自ら、要求を政策にまとめているのを感じて聞いてきました。

(文責：中富)



あなたも組合の仲間になりませんか？*

あなたの声を大学運営に、労働条件改善に反映させてみませんか？私たちは、あなたの参加を期待しています。

お申し込みは、単組役員もしくは組合まで



～ 全大教訴訟関係 ～

提訴単組は8単組に!

署名・カンパ活動を実施中です

国家公務員の給与臨時削減に準じた賃金引き下げに対し、現在高専、高エネルギー研究所、福岡教育大、山形大学、富山大学、京都大学、新潟大学、高知大学の8単組が訴訟しています。また、東京学芸大学、電気通信大学、福井大学、福島大学の4単組も訴訟の準備を進めており、全部で12単組となる予定です。

これらの提訴単組を支援するため、全大教では、署名活動およびカンパの募集を行っています。

まずは、先行する高専、高エネ研、福教大のための「未払い賃金請求訴訟の公正な判決を求める署名」を現在集めています。9月9日と12日に全大教は21団体に団体署名の要請を行い、多くの団体の賛同を得ました。みなさまにも個人署名のご協力よろしくお願ひします。また、カンパのご協力もお願ひします。一口200円です。組合員以外の方も、ご賛同していただける方は、是非ご協力をお願いします。お近くの組合役員または組合事務室に声をおかけください。

<今後の予定>

高エネ研 10月7日 第5回口頭弁論
 山形大 10月22日 第3回口頭弁論
 高専 11月1日 第6回口頭弁論
 京都大 11月19日 第2回口頭弁論
 富山大 11月20日 第3回口頭弁論
 高知大 11月22日 第2回口頭弁論
 新潟大 12月2日 第2回口頭弁論
 福教大 進行協議(非公開)



中四国では高知大学が提訴しています。岡山大学職員組合は高知大学

を支援すべく口頭弁論の傍聴に行く「傍聴支援」を行っています。高知は岡山からJRで約2時間半かかり、けて近くはありませんが、裁判の傍聴に行ってみたくと思われる方、是非、単組役員または組合事務室までご連絡ください。

写真は9月20日高知大学の第一回口頭弁論・報告集会の様子です。(全大教組合員限定ページに掲載)岡山大学からも2名が傍聴支援に行きました。

(副委員長 笹倉万里子)



夏パーティ開催しました

残暑厳しい8月の終わり、泡立つ麦茶は美味しいだろうな・・・などと週明けから期待していましたが、この日は昼から雨で麦茶を欲するレベルはちょっと低めでした。初めて夏パーティに参加する私は、当日の進行役を命じられていました。何がどのように行われるかさっぱり分からない状況でしたが、会場で書記の岡本さんから次第なるものをいただき、おおよその流れを理解してこれなら気楽にやれと安心して臨みました。夏パーティなのでメインは組合員間の懇談です。しかしそこは職員組合。懇談の前に大学改革の情勢に関する話を中富委員長からしていただきます。問題となったのはいつ乾杯をするかで、初参加の私は喉だけ潤してのんびり話を聞けばいいやと考えましたが、ここはケジメが肝心?と委員長の話が終わってから懇談のスタートです。麦茶を欲するレベルがどんどん上がっていく・・・このお預け状態は(少なくとも自分には)効果抜群でしたね。



中富委員長はボリューム十分な資料を準備してくださっており、20分という短い説明でしたが、自分の知らないこと知っていることを整理する良い機会になりました。この時には研究大学強化促進事業の支援対象機関に選定されていましたし、グローバル化推進も以前から聞かされていたので、外から人を呼んで歪んだ組織を作るのではなく、現教職員のさらなるレベルアップを大学がどのように進めるかが課題だな、と自分なりに考えました。1時間く

らいもらえればもっと詳しく話すよと中富委員長は笑っておられました。既に喉が渴ききっていた進行役は(と恐らく参加者の皆さんも)、歓談に移ることをためらいませんでした。

参加者が24名だったこともあり、全員に近況報告等をしていただきながらの歓談です。合唱団の歌を初めて聞きましたが、レベルの高さもさることながら、皆さんが心からエンジョイしていることが真っ直ぐに伝わってくる楽しい歌でした。加藤先生の躍動感あふれる指揮と豊かな表情にも圧倒されました。

次第では21時頃終了の予定でしたが、料理がゆっくり出てきたこともあり(最後のケーキまで皆さんしっかり食べられたのには驚きました)、金曜日の夜を参加者全員でゆっくり堪能しました。大学改革の情勢という一見硬い感じですが、内容は組織内の風通しを良くするための身近な話です。組合費を納めておられる方もそうでない方も、このパーティーはお得感あると思います。次回はクリスマスパーティーです。(副委員長 西野直樹)



夏パーティ参加と結婚報告

夏のパーティーに参加させていただきました。今回のパーティーは、勉強会も食事も合唱もボリュームいっぱいとても楽しい時間を過ごすことができました。私事で恐縮ではあるのですが、パーティーにおいて簡単にはありませんが結婚のご報告をさせていただきました。6月の総会後の懇親会の折りに参加された多くの方から祝福とお祝いをいただきましたが、この機会にそのお礼も兼ねてお時間をいただきました。懇親会に参加されて今回のパーティーに参加されていない方もおられたので、たいへん遅くなりましたが、この場をお借りして御礼申し上げます。今回はたくさんの方に祝福とお祝いとをいただき大変感謝いたしております。ありがとうございます。(書記長 藤原貴生)

2013夏パーティに参加して

「語って 歌って 飲んで 食べて あの人の人 おもしろい ♪♪」(岡大職組版 明日があるさ)

会の途中、組合合唱団が披露して下さった歌詞のように、2013夏パーティも、すてきな出会いと食べきれないご馳走とおいしいお酒でした。



様々な学部の方が集う連合体パーティーは、いつも素敵な出会いがあります。初参加のパーティーでは、工学部の方との話がきっかけで、本校へ出前実験教室にたくさんの工学部の先生方が子どもたちのために来てくださっています。前回のクリスマスパーティーでは、同じテーブルなのに、あまり話しができず残念に思っていた医学部の方々と、会の後、偶然駅前で会ったことで、駅中でコーヒーを飲みながら楽しい会話のすてきな時間のクリスマスプレゼントをいただきました。

そして、期待いっぱいの今回。テーブル上の手作り天球儀の幻想的な灯り。すてきな合唱を披露して下さった(私は「いのちの歌」が一番好きです)組合合唱団の方との楽しい会話。組合だより連載の「ローカル線で行く!フーテン旅行」の大西さんとも話しができ、興味深い話が聞けました。もちろん、最初の勉強会では、テーブル上のカニバサミに、勉強後のごほうびを期待しながら、「大学改革の現在」についての具体的でわかりやすいお話に、人材力強化、グローバル化に向けて大学がどう変わっていくかとしているのかを知ることができました。

盛りだくさんで楽しい時間は、あっという間にすぎ、気づいたら、遠距離電車通勤の私は、終電の時間が過ぎていて、こちらに転勤してきて3回目の朝帰りとなりました。今回も、すてきな出会い・楽しい時間をありがとうございました。

(附属学園単組 小野 浩)

夏パーティに参加させていただいて

8月30日(金)、職員組合の夏パーティに参加させていただきました。今回も?厚かましく息子(小学生)を連れて参加させていただきました。数年前に加入した私は、アットホームな雰囲気と子連れでも一緒に楽しめる組合のパーティを密かに楽しみにさせていただいております。

(働くお母さん・特に子育て世代には、子連れOKが何より大事なポイントですよ、笑。)

委員長から、現在の大学の状況や動きをご報告いただき等、しっかり活動しながら、皆で美味しい食事と素敵な合唱を楽しませていただきました。いつも細やかな心配りをいただく役員・幹事の皆さまに心より御礼申し上げます。(工学部/中村有里)



ローカル線で行く！フーテン旅行記 第12回 ついに引退、旧型ディーゼルカー！ 水島臨海鉄道水島本線

工学部単組 大西孝

「学生時代は国鉄が乗り放題の周遊券で、あてのない旅行を楽しんだもんだよ。」ある年代を超えた旅行好きの方の中には、こんな思い出話をしてくださる方もいらっしゃいます。そんな旅行を支えたのが、クリーム色と赤色に塗り分けられたディーゼルカーではないでしょうか。今と比べて電化が進んでいかなかった国鉄時代、地方に行けば必ずお世話になったのが、バスやトラックのように軽油を燃料として走るディーゼルカーでした。これらのディーゼルカーのうち、昭和30年台前半に設計・製造された旧型のもは、地方路線の電化や廃止が進んだ昭和60年代の国鉄末期に急速に姿を消し、国鉄が民営化されて25年以上がたつ現在、JR線で見ることができません。



来年3月末に引退する旧型ディーゼルカー。赤とクリーム色の塗り分けが懐かしいという方もいらっしゃるでしょう。白地に青帯という塗装の旧型車もあります。

あなたも組合合唱団に参加しませんか？

こんにちは！職員組合合唱団です。合唱団では月に3回、金曜日の夕方6時から北公民館で練習をしています。レパートリーは世界や日本の名歌から心にジーンとくる懐かしい歌まで、様々な曲で合唱を楽しんでいます。毎回簡単なストレッチで練習スタート、発声練習、そして歌声が部屋いっぱい、公民館いっぱい(?)に広がっていきます。みんなで楽しく歌って身も体もほぐれ、一週間の疲れから開放！です。一度、覗いてみてください。お待ちしております。(合唱指導 加藤晴子)



ところが意外と近くの水島臨海鉄道水島本線には、今なお現役で幸運な車両が走っています。この路線は、JR倉敷駅に隣接する倉敷市駅から水島臨海工業地帯へ南下し、水島駅を経て終点の三菱重工前駅に至る路線です。同鉄道には水島本線の他に貨物列車専用の路線もあり、沿線の工業地帯への貨物輸送に力を入れる一方、20年ほど前までは国鉄から中古車両の購入で旅客輸送に対応してきました。しかし1995年に新型のディーゼルカーを導入し、現在は土曜休日の全列車と、平日の昼間の列車が新型車で運転されています。それでも沿線の工場地帯への通勤客や住宅地からの通学客が利用する平日の朝夕は、老体の旧型車の応援を借りています。幸運にも4両が残る旧型車は、いずれも昭和35年製。製造から20~40年ほどで廃車される鉄道車両が多い中、50年以上走り続ける大変な長寿達です。さすがにそろそろ引退かなと思っていたところ、水島臨海鉄道のホームページに、2014年3月末をもってJR東日本から購入した、より新しい車両へ置き換えるという情報が掲載されました。



青い座席と緑の壁が懐かしい車内。側面の扉は手で引いて開けます。吊皮を支える金具の曲線もレトロです。

旧型車は平日の朝夕(倉敷市発7時半~9時頃と、16時半頃~18時頃)に2両1組だけが運行

されるので、思い立って気軽に乗車するのは難しいですが、懐かしい旅行の思い出に浸りたい方は、ぜひ訪れていただければと思います。全国でも定期的に同型の車両が運転されている鉄道はほとんどなく、日常生活の中に溶け込んで最後の活躍をする姿は必見です。床から「カランカランカラン」と心地よく響いてくるエンジン音、停車中に取り手を倒して手で開ける扉、淡い緑の壁に狭い青色のボックス席、天井を見上げると網棚は金網ではなく、紐を編んだネットが使われています。今の電車のように金属の地肌がギラギラ露出した部分も少なく、簡素ながらも温もりを感じる車内は、まさに「ALWAYS 三丁目の夕日」のような昭和ノスタルジーの世界

です。加速はゆっくりですが、それでもエンジン音を響かせて走る姿は「まだまだ走れるんだぞ!」と訴えているように思えてきて、生き物のような温かみを感じられます。引退が近づくと何かと騒々しくなりますので、ご関心のある方はお早目のご乗車をお勧めします。



昭和 35 年の文字が残る製造銘板。東海道新幹線も開通していなかった頃、東京オリンピックより前に作られた車両です。



<単組だより>

<理学部単組から>



夏のビアパーティ交流会開催

理学部職員組合は、組合員 28 名で活動を行っています。5 学科（数学、物理、化学、生物、地球）に加え、界面科学研究施設と臨海実験所などから教員や技術職員など多彩（マニアック）な個性を持ったメンバーです。しかし、普段は互いに蘊蓄を語り特技を披露するチャンスがありません。そのため、組合では学部長との懇談会や講演会だけでなく、夏の親睦会、ビール工場の見学、新年会などを積極的に開催して交流の場を広げています。そこでは、写真を使った旅行記などの近況報告もあり、互いの親睦に大いに役立っています。この様な地道な(?)活動の成果もあり、組合員の新規加入者もありました。

本年度最初のプログラムとして、8月21日に「夏の親睦会」ビアパーティが、組合員と家族も加わっての12名で盛大に開催されました。ノンアルコール飲料や北海道フェア食べ放題もあり、子どもから車通勤者まで満足の会となりました。参加者からは、「涼しい館内でビールが飲めるのは魅力的だ。料理の種類は豊富で、特に氷点下の生ビールは、猛暑の疲れを癒してくれる最高の強壮剤となった」、「違う学科のメンバーが情報交換をし、普段思っている事を話し合えるのは組合の飲み会しかないと思う」、「他学科の方々と大学院入試や院生数の充足、宿舍廃



止の問題など貴重な話が得られた」、「組合員がもっと参加してくれる会を、今後も企画して行きたい」等の意見が寄せられました。今後も、積極的に交流の場を提供したいと思いますので、組合活動に興味を持っている方の参加をお待ちしています。(理学部書記長 味野道信)

<附属学園から>

職員組合恒例ボウリング大会を開催しました

日時 7月31日(水) 18:00~

場所 両備ボウル

20人の参加により、個人戦とペア戦で競いました。ストライクやスペアがでると拍手喝采でハイタッチ。和気あいあいと進んでいきました。でも、きっと心の中ではスコアのことを気にしていたはず……。それは、豪華賞品が待っているからです。1位になった方々おめでとうございます。賞品は喜んでいただけたでしょうか。来年も豪華賞品を用意しての開催を継続していきたいと思っています。

附属学園ポロシャツを配付しました



今年は「黒色」と「ピンク色」を追加。今までの「白色」と「紺色」をあわせて、4色になり、ますますポロシャツが活躍することも多くなることでしょうか。来年は何色が増えるのでしょうか、楽しみです。(内藤由美子)

